

御降誕

ルカ 2, 1-21

¹ そのころ、皇帝アウグストゥスから全領土の住民に、登録をせよとの勅令が出た。² これは、キリニウスがシリア州の総督であったときに行われた最初の住民登録である。³ 人々は皆、登録するためにおのこの自分の町へ旅立った。⁴ ヨセフもダビデの家に属し、その血筋であったので、ガリラヤの町ナザレから、ユダヤのベツレヘムというダビデの町へ上って行った。⁵ 身ごもっていた、いわずけのマリアと一緒に登録するためである。⁶ ところが、彼らがベツレヘムにいるうちに、マリアは月が満ちて、⁷ 初めての子を産み、布にくるんで飼い葉桶に寝かせた。宿屋には彼らの泊まる場所がなかったからである。⁸ その地方で羊飼いたちが野宿をしながら、夜通し羊の群れの番をしていた。⁹ すると、主の天使が近づき、主の栄光が周りを照らしたので、彼らは非常に恐れた。¹⁰ 天使は言った。「恐れるな。わたしは、民全体に与えられる大きな喜びを告げる。¹¹ 今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである。¹² あなたがたは、布にくるまって飼い葉桶の中に寝ている乳飲み子を見つけるであろう。これがあなたがたへのしるしである。」¹³ すると、突然、この天使に天の大軍が加わり、神を賛美して言った。¹⁴ 「いと高きところには栄光、神にあれ、地には平和、御心に適う人にあれ。」¹⁵ 天使たちが離れて天に去ったとき、羊飼いたちは、「さあ、ベツレヘムへ行こう。主が知らせてくださったその出来事を見ようではないか」と話し合った。¹⁶ そして急いで行って、マリアとヨセフ、また飼い葉桶に寝かせてある乳飲み子を探し当てた。¹⁷ その光景を見て、羊飼いたちは、この幼子について天使が話してくれたことを人々に知らせた。¹⁸ 聞いた者は皆、羊飼いたちの話をも不思議に思った。¹⁹ しかし、マリアはこれらの出来事をすべて心に納めて、思い巡らしていた。²⁰ 羊飼いたちは、見聞きしたことがすべて天使の話したとおりだったので、神をあがめ、賛美しながら帰って行った。²¹ 八日たって割礼の日を迎えたとき、幼子はイエスと名付けられた。これは、胎内に宿る前に天使から示された名である。

御降誕

霊操

[110] 第二感想 誕生についてである。

準備の祈り

いつもの通りにする (46)。

[111] 第一の準備

内容をまとめる事。ここでは、懐妊九ヶ月の聖母が、ヨセフと一人のはしめと共にナザレを出発し、（聖母が牝ろばに乗っておられるのを信心深く黙想してもよいが）、ローマ皇帝がその地方の全てに課した貢物を納めるために、牝牛を連れてベツレヘムに赴かれた (264)。

[112] 第二の準備

見えるように場所を設定する事。ここでは、ナザレからベツレヘムへの道を想像の目で見、道の長さや広さ、又平坦であるか、谷や丘を越えて行くかを観察する。同様に、誕生の場所（又は洞窟）に目を向け、それがどの位大きい小さいか、どんなに低いか、どのように整っているかを観察する。

[113] 第三の準備

前の観想と同じ内容を同じ方法で行う。

[114] 第一要点

観想における人物を見る事。すなわち、聖母マリア、ヨセフ、はしめ、又、誕生直後のみどりごイエスを見る。さながらそこにいるかのように、できる限りの畏敬と敬意を尽くし、自分を貧しき者、とるに足りぬ小さき下僕とみなし、この方々を見、観想し、入用な物の世話をする。次いで何らかの益を収めるため、自分に目を向ける。

[115] 要点第二

彼らが話している事に気をつけ、注意し、観想する事。そして、自分に目を向け、何らかの益を収める。

[116] 要点第三

彼らが行っている事（歩いたり働いたりしている事等）を見、考察する事。こうして、主がこの上なく貧しい状態の中で生まれ、飢え渴き、暑さや寒さ、辱めや

御 降 誕

蔑みの数々の労苦を忍ばれた挙句、十字架上で死ぬ事になる。そして、この全ては、私のためである。次いで自分に目を向け、何らかの靈的利益を収める。

[117] 対話

前の観想と同様に対話と主祷文で終わる。

御 降 誕

私たちと一緒におられる神様。

エンマヌエル

- 神様が私たちの仲間になる...
 - 私たちの隣にご自分の「テント」を張る...
 - 私たちと共に、私たちのそばに歩きたいと...
- マリアの体内で人となるために「許可」を求める神の「謙虚な願い」に対する聖母の応答...
- イエスはこの世での「巡礼」を始める。
 - 誕生、幼少期、ナザレでの生活...
 - 隠れた人生の意義...
- イエスの人生の物語とあなたの人生の物語...
 - あなたにとって、イエスの受肉は何を意味しますか。
 - 自分が人間になるために「許可」を求める神...
 - 神の「謙虚な願い」に対して、マリアの返事...

聖書の箇所

マタイ 1:18-24

¹⁸ イエス・キリストの誕生の次第は次のようであった。母マリアはヨセフと婚約していたが、二人が一緒になる前に、聖霊によって身ごもっていることが明らかになった。¹⁹ 夫ヨセフは正しい人であったので、マリアのことを表ざたにするのを望まず、ひそかに縁を切ろうと決心した。²⁰ このように考えていると、主の天使が夢に現れて言った。「ダビデの子ヨセフ、恐れず妻マリアを迎え入れなさい。マリアの

御降誕

胎の子は聖霊によって宿ったのである。²¹ マリアは男の子を産む。その子をイエスと名付けなさい。この子は自分の民を罪から救うからである。」²² このすべてのことが起こったのは、主が預言者を通して言われていたことが実現するためであった。²³ 「見よ、おとめが身ごもって男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」この名は、「神は我々と共におられる」という意味である。²⁴ ヨセフは眠りから覚めると、主の天使が命じたとおり、妻を迎え入れ、²⁵ 男の子が生まれるまでマリアと関係することはなかった。そして、その子をイエスと名付けた。

御降誕

マタイ 2:1-12

¹ イエスは、ヘロデ王の時代にユダヤのベツレヘムでお生まれになった。そのとき、占星術の学者たちが東の方からエルサレムに来て、² 言った。「ユダヤ人の王としてお生まれになった方は、どこにおられますか。わたしたちは東方でその方の星を見たので、拝みに来たのです。」³ これを聞いて、ヘロデ王は不安を抱いた。エルサレムの人々も皆、同様であった。⁴ 王は民の祭司長たちや律法学者たちを皆集めて、メシアはどこに生まれることになっているのかと問いただした。⁵ 彼らは言った。「ユダヤのベツレヘムです。預言者がこう書いています。⁶ 『ユダの地、ベツレヘムよ、お前はユダの指導者たちの中で決していちばん小さいものではない。お前から指導者が現れ、わたしの民イスラエルの牧者となるからである。』」⁷ そこで、ヘロデは占星術の学者たちをひそかに呼び寄せ、星の現れた時期を確かめた。⁸ そして、「行って、その子のことを詳しく調べ、見つかったら知らせてくれ。わたしも行って拝もう」と言ってベツレヘムへ送り出した。⁹ 彼らが王の言葉を聞いて出かけると、東方で見た星が先立って進み、ついに幼子のいる場所の上に止まった。¹⁰ 学者たちはその星を見て喜びにあふれた。¹¹ 家に入ってみると、幼子は母マリアと共におられた。彼らはひれ伏して幼子を拝み、宝の箱を開けて、黄金、乳香、没薬を贈り物として献げた。¹² ところが、「ヘロデのところへ帰るな」と夢でお告げがあったので、別の道を通して自分たちの国へ帰って行った。

詩篇 98

¹ 【賛歌。】新しい歌を主に向かって歌え。主は驚くべき御業を成し遂げられた。右の御手、聖なる御腕によって主は救いの御業を果たされた。² 主は救いを示し恵みの御業を諸国の民の目に現し³ イスラエルの家に対する慈しみとまことを御心に留められた。地の果てまですべての人はわたしたちの神の救いの御業を見た。⁴ 全地よ、主に向かって喜びの叫びをあげよ。歓声をあげ、喜び歌い、ほめ歌え。⁵ 琴に合わせてほめ歌え、琴に合わせ、楽の音に合わせて。⁶ ラッパを吹き、角笛を響か

御 降 誕

せて王なる主の御前に喜びの叫びをあげよ。⁷ とどろけ、海とそこに満ちるもの世界とそこに住むものよ。⁸ 潮よ、手を打ち鳴らし山々よ、共に喜び歌え⁹ 主を迎えて。主は来られる、地を裁くために。主は世界を正しく裁き諸国の民を公平に裁かれる。